

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H02719

研究課題名(和文) モンゴル仏教のグローバル実践に関する学際・国際的地域研究

研究課題名(英文) The Interdisciplinary Research on the Glocal Practices of Mongolian Buddhism

研究代表者

島村 一平 (Shimamura, Ippei)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・教授

研究者番号：20390718

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はモンゴルのみならずインド、中国、欧米などを舞台にグローバルに展開されているモンゴル仏教の実践を明らかにすることを目的としていた。調査を通じて、社会主義期による「モンゴル仏教」の形成過程や、現在における化身ラマ(転生活仏)を結節点としたモンゴル仏教のグローバルな実践の実態が明らかにできた。その成果は、季刊民族学の特集号や多くの著書・論文・学会発表なので発表できた。また総まとめとして、2022年12月17日～18日に国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」を国立民族学博物館にて開催した。この成果は、国立民族学博物館研究報告の特集号としてまとめる予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、チベット・モンゴル仏教をモンゴル人の実践に焦点を当てることで、「モンゴル仏教」が教団や制度として成立している点や、グローバルな実態を明らかにしたという点において学術的意義は高い。またダライ・ラマを中心としたチベット仏教ゲルク派は、欧米諸国と深いつながりを有する一方で中国政府とは対立関係にある。本研究が明らかにしてきたとおり、モンゴル人の仏教実践は、この国家間のパワーポリティクスとは無関係でありえず、こうした状況の実態を調査することは、学術的に重要であるだけでなく、国際情勢を把握する上でも重要であるといえる。その点において社会的意義は非常に高いといえよう。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the practice of Mongolian Buddhism, which has developed glocally, not only in Mongolia, but also in India, China, Europe, and the United States. Through the researches, we elucidated that "Mongolian Buddhism" was formed and practiced in a global and local politics in association with enthoning the reincarnated lamas as the nodal point. Moreover we demonstrated throughout socialist era, disconnected with Tibet because of Soviet intervention to the Tibetan Buddhist church. The results were published in a special issue of Ethnology Quarterly and in many books, articles, and conference presentations. Eventually, we held the international symposium "Buddhist Practice and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia," at the National Museum of Ethnology on December 17-18, 2022. The results will be compiled as a special issue of the Bulletin of the National Museum of Ethnology.

研究分野：文化人類学

キーワード：モンゴル仏教 化身ラマ 転生活仏 ポリティクス グローカル実践

## 1. 研究開始当初の背景

いわゆる「モンゴル仏教」は、国内外において基本的にチベット仏教の一支流であるとの解釈が主流であったため、学問的にそれほど注意は払われてこなかった。ただし日本では、戦前より例えば橋本光實や長尾雅人が内モンゴルにおいてラマ(僧侶)として滞在し、モンゴル語仏典の紹介・解釈といった研究に留まらず、寺院内の社会組織に関する調査記録を残している。しかし現在、モンゴル地域が社会主義を経てきたせい、本科研の申請当初、フィールドワークに基づく復興したモンゴル仏教にかかる研究は、ほとんど行われてこなかった。とりわけ転生活仏(化身ラマ)制度の復興現象に関する研究はほとんど見当たらない。

その一方で近年、未開拓の領域であった「モンゴル仏教」「ラマと社会の相互作用や政治性」を扱った社会研究については、欧米の研究者が続々と参入してきていた。例えば、ケンブリッジ大のC. ハンプリーとフレルバートルは、2013年の著書において内モンゴルのメルゲン寺院に関する文献資料と13年間の聞き取り調査から、モンゴル仏教がチベット仏教から自立した宗教システムをもっていたことを英語圏で初めて明らかにした。さらにアメリカの宗教学者V. ウォレスらは、モンゴル仏教の歴史と現在に関するアンソロジー『*Buddhism in Mongolian History, Culture, and Society*』(Oxford University Press, 2015)を発表した。この中でウォレスらは、いかにチベット仏教が現地化(=モンゴル化)していたことに焦点を当てている。しかし現在の化身ラマ(=転生活仏)の誕生現象に関しては、現在のところ研究はほとんどなされてきていない。

そうした中、本科研の代表者である島村は、社会主義崩壊後のモンゴルにおいてシャーマンが簇出する現象を読み解く研究を行ってきた。この研究を通して島村は、シャーマンより20年ほど遅れて始まった転生活仏の簇出がシャーマン増殖の仏教版ではないかとの仮説を抱いた。転生活仏(化身ラマ)に関しては、日本では内在的な理解をめざすあまり「転生」という現象に対して、研究者自身がチベット仏教を信仰するあまり自明視する言説も少なくない。そこで、従来の神秘主義的な説明とは異なる活仏を巡る仏教実践の諸相を明らかに必要があると考えた次第である。

## 2. 研究の目的

本研究では、当初、活仏誕生を巡る1)ローカル2)他宗教との関係3)グローバルの三つのポリティクス/せめぎあいの実態を学際的・多拠点調査で明らかにしていくことを目的としていた。

### 1)ローカルな力と富をめぐるポリティクス(モンゴル国・内モンゴル自治区)

有力者(政治家や党、過去では王侯)・寺院・地方の牧民たちのいかなるせめぎあいの中で「結節点」たる活仏が生み出されてきた/いるのかを歴史的文献調査・人類学的フィールドワークや活仏自身へのライフヒストリーで、複合的に理解することをめざす。

### 2)他宗教と仏教のミクロ/マクロ・ポリティクス(モンゴル国)

モンゴル国を対象に活仏誕生を巡って起きる、他宗教(キリスト教、シャーマニズム)とのせめぎあいをマクロ(教団側のポリシー)とミクロ(信者側の実践)の両面から明らかにする。そこで家族や親戚、地域などのローカルな空間で、仏教徒とキリスト教徒、あるいはシャーマニストの両者が一緒にいる場合に、どのような葛藤や衝突があり、解決方法があるか、フィールド調査で明らかにする。

### 3)活仏誕生をめぐるグローバルなポリティクス(インド・アメリカ・中国青海省)

ダライ・ラマ法王庁のあるインド・ダラムサラやチベット人居住区とモンゴル人居住区が隣接した青海省で調査を行うことでチベット人仏教世界とモンゴル仏教の交渉とせめぎあいを明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究は、社会人類学的なフィールドワーク、特に多拠点調査法に基づいて遂行される。調査対象地は、活仏が誕生しているモンゴル人居住地域として以下の3カ国の複数地点を選ぶ。1. モンゴル国 2. 中国内モンゴル自治区 3. 中国青海省 4. インド共和国(ダラムサラ市) 5. アメリカ合衆国(ブルーミントン市など) 調査は、日本に所属を置く研究者らによって行われるが、海外共同研究者との連携で行われる。最終年度には国際シンポジウムを企画する。

### 4. 研究成果

本研究は、本来の研究目的に沿った成果のみならず、思わぬ副産物的な成果を得ることになった。これは、そのほかの研究目的と深く関わる事象の解明であったため、まずはこの副産物の成果から報告した上で、三つの研究目的の成果を順番に報告していくものとする最後に本科研の総まとめとして開催した国際シンポジウムについて報告し、今後の展望をまとめておきたい。

#### 4-1. 副産物の成果：社会主義時代の仏教実践の実態の解明

本科研の大きな副産物は、モンゴルの社会主義時代(1924-1992)における仏教実践の実態がより高い解像度で明らかにできた点である。従来の研究では、モンゴルを含めた旧ソ連圏において、宗教の実践が公的空間で抑圧されたため、私的空間でのみ密かに実践される「私事化」あるいは「家庭内祭祀」という言葉で説明されてきた。

これに対して島村は、モンゴル国で行ったフィールド調査を通じて、社会主義時代に還俗したラマ僧たちが厄除けなどの呪術行為に特化することで公的空間でも生き残ったこと、さらに社会主義的近代化による行政サービスや医療を人々が呪術として認識していたという「二重の呪術化論」仮説を着想した。そこで本科研では『季刊民族学』164号(2017年)において特集「モンゴル仏教と化身ラマ あるいは生まれ変わりの人類学」を組み、新知見を発表した。また島村は『社会人類学年報』44号でも発表した。この議論は、スイスの仏教学者に注目され、2019年3月、島村と研究協力者のハグワテムチグ(モンゴル国立大)はベルン大学の国際会議に招聘され講演を行った。その成果は、スイス・アジア学会の紀要などで論文として発表し、国際的なオーディエンスを獲得している。

またハグワテムチグは、本科研で得た知見をもとに博士論文『双頭のモンゴル仏教：現代モンゴル仏教の教団内政治に関する歴史人類学的研究』を滋賀県立大学大学院人間文化科学研究科(当時の島村の本務校)に提出し、2018年3月に博士号を取得した。さらに本科研を通じてこの「副産物」の重要性を認識した研究協力者のS.チョローン(モンゴル科学アカデミー・歴史学研究所所長/当時)は、社会主義時代の仏教実践の再検討の必要を認め、同研究所内で同テーマのプロジェクトを立ち上げた。プロジェクト代表のミヤグマルサンポーは、1944年以降、ガンダン寺の活動の再開が認められ、限定的ではあるものの、公的空間で仏教実践が行われてきたことを史料から明らかにした。さらに社会主義の宗教抑圧

に対する宗教復興の起点を従来の社会主義崩壊期(1990年前後)ではなく、1944年であったと指摘した。その成果は、単著『モンゴル人民共和国：社会主義と仏教』(モンゴル語、2022年)に結実している。

#### 4-2. ローカルな力と富をめぐるポリティクス(モンゴル国・内モンゴル自治区)

この目的に関して本科研では、活仏や還俗した活仏たちが社会主義時代もポスト社会主義時代も党や政府とのポリティクスを通じて、モンゴルで仏教実践を維持してきたことを明らかにしてきた。その初期の成果として挙げられるのが、2017年11月に2017年日本モンゴル学会秋季大会においてロシアやモンゴルの研究協力者とともに組織した特別セッション「現代モンゴルにおける仏教実践の諸相」である。また本科研では、モンゴルにおいて反ダライ・ラマ勢力であるシュグデン派の化身ラマ(活仏)に聞き取り調査をモンゴルやスイス、ハンガリーで行った。彼らは、従来には存在しなかった富の蓄積による幸せを説く行為や社会主義時代の英雄スフバートルの像を「国家独立の英雄」として祀るといった、新しいモンゴル仏教の実践を明らかにした。また趙は、内モンゴル活仏調査を通じて、ゲゲーン・サン(活仏の蔵)と呼ばれる寺院内の財務組織が活仏の神聖性の演出に大きな役割を担っていることを指摘した。

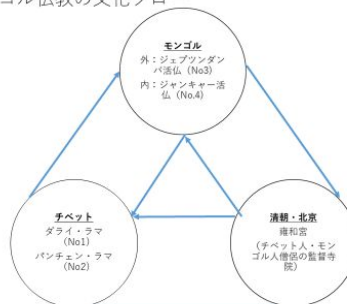
#### 4-3. 他宗教と仏教のミクロ/マクロ・ポリティクス(モンゴル国)

次にこの研究目的に関して、島村は、キリスト教と仏教のせめぎ合いについて『季刊民族学』44号にて、バヤンホンゴル県を事例に活仏の多い地域であるからこそキリスト教(福音派など)が布教に力を入れている現状を報告した。また首都ウランバートルにおいてシャーマニズムが流行する中で仏教の生まれ変わり思想が維持されている様などを前出の著書『憑依と抵抗』『ヒップホップ・モンゴリア』などの著書やほかの論文やエッセイなどで発表している。

#### 4-4. 活仏誕生をめぐるグローバルなポリティクス(インド・アメリカ・中国青海省)

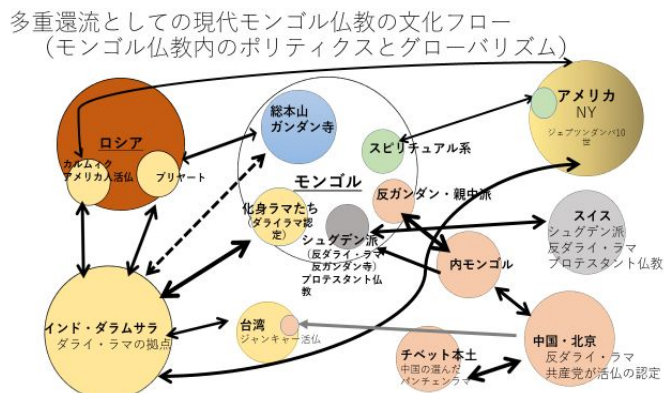
このテーマに関して本科研では、インドの北部のダライ・ラマ法王の座するダラムサラなどで現地調査を行った。そこで若手僧侶の育成機関であるゴマン学堂の近年の学生の約8割がチベット人ではなく、モンゴル人となっており、チベット仏教ゲルク派を担う若手がチベット人からモンゴル人へ移りつつある現状が明らかになってきた。また多くのモンゴル人活仏は、ダライ・ラマの認定を受けてインドでさらなる修行を行っている実態を明らかにした。

清朝時代(1691-1911)のチベット・モンゴル仏教の文化フロー



次にモンゴル仏教のヨーロッパでの活動状況をスイスやハンガリーで調査することで反ダライ・ラマ派であるシュグデン派がスイスやオーストリアを中心にモンゴル人ラマ僧を育成していることがわかってきた。こうしたグローバルに調査活動を広げていくことで、現代のチベット・モンゴル仏教は、清朝時代のチベット・モンゴル仏教と異なり、多くの国々に跨った拠点を有しており、様々なエージェントとの関係性の中で相克と協働をしながら、グローバルなフローを展開していることが明らかになってきた。すなわち前頁の図のよ

うに清朝時代は、チベット、内モンゴル・外モンゴル、清朝の都、北京との関係性の中でチベット・モンゴル仏教が実践されてきたのに対し、現代では、上の図のようにモンゴル人の仏教実践に限定して着目した場合、右の図のようにグローバルな「多重環流」としての「モンゴル仏教」が見えてきたのである。



#### 4 - 4 .日本モンゴル外交関係樹立 50 周年記念特別展「邂逅する写真たち モンゴルの 100 年前と今」

この特別展は、約 100 年前と現代のモンゴルを、写真を通じて対比的に展示したものである。本展示は、科研の代表者である島村を実行委員長とし、科研の研究分担者を務めた小長谷や滝澤も特別展の実行委員として参加した。展示は、国立民族学博物館の特別展示館において 2022 年 3 月～5 月にかけて開催され、三万人近い来館者が訪れた。中でもモンゴル仏教に焦点を当てた部分は、本特別展の中でも重要な位置を占めていた。というのも 100 年前のウランバートルは、大活仏が治める宗教都市ウルガだったからである。本科研での調査を通じて、ウルガにおける仏教実践の諸相が明らかになり、その成果は、本特別展の図録などで出版・公開をしている。

#### 4 - 5 . 国際シンポジウム 「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ ( Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia )」

そもそも本科研は、2020 年度を最終年度としていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、調査の一部を中止したり、総まとめのシンポジウムの開催を延期したりせざるを得なかった。しかしながら 2022 年 12 月 17 日、18 日に国立民族学博物館において国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」を開催できた。このシンポジウムは、第一にモンゴル仏教というものが制度的に以下に形成されてきたか、第二にモンゴルのみならずインド、中国、アメリカなどを舞台にグローバルに展開されているモンゴル仏教の実践の諸相を特に「化身ラマ/転生活仏」を巡るポリティクスに焦点を当てて明らかにすることを目的とした。シンポジウムには、研究分担者のほか、モンゴルから 4 名の研究協力者 (1 名の活仏も含む) が発表をした。

### 5 . 今後の展望

本研究は、チベット・モンゴル仏教をモンゴル人の実践に焦点を当てることで、グローバルな実態を明らかにすることであった。そもそもダライ・ラマを中心とした「チベット仏教」は、欧米諸国と深いつながりを有する一方で中国政府とは対立関係にある。本研究が明らかにしてきたとおり、モンゴル人の仏教実践は、この国家間のパワーポリティクスとは無関係でありえない。こうした状況の実態を調査することは、学術的に重要であるだけでなく、国際情勢を把握する上でも重要であるといえる。その点において社会的意義は非常に高い。

なお最終のシンポジウムでの発表原稿は、『国立民族学博物館研究報告』に特集号として掲載することを目指している。また、学術論文として報告するだけでなく、一般社会への還元を考えて一般書の出版なども視野に入れていきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 島村一平	4. 巻 49
2. 論文標題 秘教化したナショナリズム モンゴル人民共和国におけるチングス・ハーン表象の誕生と挫折、秘教化（1921～1953）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本モンゴル学会紀要	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 モンゴル文化と女性：家事と育児をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 乳房文化研究会 2018年度講演録	6. 最初と最後の頁 11-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ippei Shimamura	4. 巻 79(4)
2. 論文標題 Magicalized Socialism: An anthropological study on the magical practices of a secularized reincarnated lama in Socialist Mongolia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asiatische Studien (Swiss Asia Society)	6. 最初と最後の頁 799 829
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松川節	4. 巻 168
2. 論文標題 ふたつの旧暦をめぐる論争 モンゴル国	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『季刊民族学』	6. 最初と最後の頁 53 55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 93(4)
2. 論文標題 現代中国の『仏教外交』 開発対象地域とのすり合わせから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗教研究 別冊	6. 最初と最後の頁 402 403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 44
2. 論文標題 呪術化する社会主義 社会主義モンゴルにおける仏教の呪術的实践と遺俗ラマ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 29-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 164
2. 論文標題 化身ラマたちの故郷を訪ねて モンゴル国中西部の旅から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 83・2
2. 論文標題 久場政博著『シャーマニズムと現代文化の病理：精神科臨床の現場から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 293-297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 島村一平	4. 巻 164
2. 論文標題 化身ラマを人類学する！	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 293-297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 164
2. 論文標題 困ったときのラマ頼み 呪術実践としての現代モンゴル仏教	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝澤克彦	4. 巻 164
2. 論文標題 化身ラマのグローバルな活動が紡ぎ出していくもの アジャ・リンポチェの事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松川節・滝澤克彦・趙芙蓉・島村一平	4. 巻 164
2. 論文標題 モンゴル化身ラマ列伝	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 69-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 松川節	4. 巻 164
2. 論文標題 モンゴルにおける化身ラマの歴史 ジェプツンダンバ・ホトクトを中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙芙蓉	4. 巻 164
2. 論文標題 活仏の素顔に出会う旅 内モンゴルの化身ラマ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジャダムビーン・ハグワテムチグ	4. 巻 164
2. 論文標題 ジェプツンダンバ9世か、ガンダン寺僧院長か? モンゴル仏教の最高指導者をめぐる相克	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ジャダムビーン・ハグワテムチグ	4. 巻 164
2. 論文標題 チベットの怨霊神シュグデンとモンゴル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 57-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lkhagvademchig Jadamba	4. 巻 50-1
2. 論文標題 Democracy and Independence: Avalokiteshvaraa, the Wisdom Eye-Opener	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Orientations	6. 最初と最後の頁 0 ウェブ雑誌
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rustam SABIROV	4. 巻 4
2. 論文標題 - :	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oriental Studies	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rustam SABIROV	4. 巻 4
2. 論文標題 :	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 200-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ippei Shimamura	4. 巻 26
2. 論文標題 A Pandemic of Shamans: The overturning of social relationships, the fracturing of community, and the diverging of morality in contemporary Mongolian shamanism	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Shaman	6. 最初と最後の頁 93 - 136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 959
2. 論文標題 社会主義が/で生み出した英雄・チンギス・ハーン モンゴル人民共和国におけるチンギス表象とナショナリズム形成にかかる一試論(1941~1966)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 36 - 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 43
2. 論文標題 『シャマニズム』から『シャーマニズム』へ：北方ユーラシアの狩猟・牧畜文化における信仰の過去と現代を接合する試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 滋賀県立大学人間文化学部紀要 『人間文化』	6. 最初と最後の頁 2 - 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝澤克彦	4. 巻 25
2. 論文標題 宗教の越境」における脱領域化と民族的文脈 モンゴルの事例を通して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日中社会学研究	6. 最初と最後の頁 13 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ippei Shimamura	4. 巻 93
2. 論文標題 Migratory Shamans: Shamanic "Propagation" from Mining Town to Mining Town in Mongolia.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 275-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 滝澤克彦	4. 巻
2. 論文標題 「宗教の越境と文脈 宗教的ダイナミズムをめぐる存在論的・認識論的前提の批判的検討を通じた超域的議論のための方法論的考察」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 117-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi MATSUKAWA	4. 巻 2
2. 論文標題 On the Oirad Tod Script Stone Sutra Preserved in the Otani University Museum.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Oyirad Studies	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 棚瀬慈郎	4. 巻 41 - 1
2. 論文標題 ラブラン僧院の現状について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 チベット文化研究会報	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 1212
2. 論文標題 特別展「邂逅する写真たち - モンゴルの100年前と今」を讀	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化財写真研究	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 46(4)
2. 論文標題 インジャーシの肖像	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 67
2. 論文標題 ネパール・ヒマラヤ国境地帯のチベット仏教圏と社会変動：北中部ラスワ郡での現地調査報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本チベット学会会報	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田 昌弘、海老原 志穂、別所 裕介	4. 巻 31
2. 論文標題 中国青海省東部の黄南藏族自治州におけるアムド・チベット牧畜民の食料摂取の事例研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 沙漠研究	6. 最初と最後の頁 15~27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14976/jals.31.1_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅伸一郎 伴真一郎 松川節	4. 巻 39
2. 論文標題 「イエシェー・ベルデン著『モンゴル仏教史・宝の数珠』チベット・モンゴル語対照訳注(1)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大谷大学真宗総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 215-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 50(6)
2. 論文標題 プーチンが踏みしめる“古き良き”ソ連 あるいは、ウランバートルとキーウとモスクワをつなぐ文化圏の終焉	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 248-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 35
2. 論文標題 『『文化の免疫システム』としてのシャーマニズム シベリア・モンゴルにおける狩猟・牧畜世界と現代をつなぐ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第35回特別展図録 『北で生きるよすが 北方民族の世界観』(北海道立北方民族博物館 特別展図録)	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 26件)

1. 発表者名 Ippei Shimamura
2. 発表標題 Divergent Nationalisms: Plural Imaginations on “Mongolian” Buddhism among Mongol Monks
3. 学会等名 Bern University International Workshop “Religion, Politics, and National Identity in Mongolia Today” (23rd April) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ippei Shimamura
2. 発表標題 Magicalized Socialism- An anthropological study on magical practices of a secularized reincarnated lama and his followers in socialist Mongolia
3. 学会等名 International Conference on Mongolian Buddhism: Tradition and Innovation, ELT, Budapest, Hungary (26th April) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 『宗教』のリセットと呪術化:モンゴルにおける社会主義的世俗化とその余波
3. 学会等名 京都フォーラム『ポスト世俗化時代の宗教を構想する』於:リーガロイヤルホテル大阪(9月28日~29日)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝澤克彦
2. 発表標題 コメント「共通論題 グローバル化におけるアジア社会と宗教文化の変容」
3. 学会等名 日本国際文化学会第18回全国大会(7月6日~7日)、長崎:長崎大学(文教キャンパス)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 B. ツォクトバートル
2. 発表標題 20世紀半ば以降の大ブルカン・カルドゥン山仏教寺院の調査概要とその意義
3. 学会等名 活仏科研研究会(2020年1月16日, 於:大谷大学)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Lkhagvademchig J.
2. 発表標題 The Bumpa Road Initiative
3. 学会等名 Bern University International Workshop "Religion, Politics, and National Identity in Mongolia Today" (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 Tibetan Studies in the Field of Socio-Cultural Research in Japan
3. 学会等名 A Roundtable Discussion on Tibetan Studies in Japan (2019年7月12日), Colledge de France, Paris. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 The Practice of Liberating Animals (tshe thar) among Pastoralists in the Sanjiangyuan Nature Reserve: Based on Field Experience Creating a Dictionary of Pastoralism
3. 学会等名 The Outcomes and Prospects of a The 15th Seminar of the International Association for Tibetan Studies (2019年7月10日), INALCO (The Institut National des Langues et Civilisations Orientales), Paris. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ippei Shimamura
2. 発表標題 Making Socialism Magicalized-a case study of secularized lamas in Zavkhan Province
3. 学会等名 Seminar of Foreign scholars, Institute of History and Archaeology, Mongolian Academy of Sciences (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 Ippei Shimamura
2. 発表標題 he Invocation Songs of Mongolian Shamanism and HipHop
3. 学会等名 International Workshop on "Shamanism from the viewpoints of America, Mongol and Okinawa at Ryukyu University (国際学会)
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 モンゴル文化と女性 家事と子育てをめぐって
3. 学会等名 ワコール人間科学研究所・乳房文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 TAKIZAWA Katsuhiko
2. 発表標題 Religious Networks in Post-Socialist Mongolia: The Cases of Christianity and Buddhism
3. 学会等名 NUS-USPC Collaborative Project “ Intersecting Mobilities: Southeast Asia from the Perspective of Religious Mobility ” Workshop on Religious Networks in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 TAKIZAWA Katsuhiko
2. 発表標題 Public Religion" across Borders: Taking an example of Global Social Activities by a Mongolian Incarnated Lama
3. 学会等名 the Inaugural Conference of the East Asian Society for the Scientific Study of Religion (国際学会)
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 TAKIZAWA Katsuhiko
2. 発表標題 モンゴルにおけるキリスト教：歴史と現状
3. 学会等名 -2018（国際モンゴル学会（IAMS）アジア大会（国際学会）
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 呪術化した社会主義：モンゴルにおける社会主義期の化身ラマ信仰の事例から
3. 学会等名 日本モンゴル学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 趙芙蓉
2. 発表標題 内モンゴルのモンゴル仏教の再生の現状と転生ラマの存在
3. 学会等名 日本モンゴル学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Jadambyn Lkhagvadenchig
2. 発表標題 双頭のモンゴル仏教：現代モンゴル仏教の主導権をめぐるジェブツンダンバ9世とガンダン寺院管長のポリティクス
3. 学会等名 日本モンゴル学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Rustam Sabirov
2. 発表標題 Varieties of Buddhism in Contemporary Mongolia
3. 学会等名 日本モンゴル学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Cho Fuyou
2. 発表標題 A Study on 'Oboo' and 'Tatoo' in Temple of Alxa Mongols
3. 学会等名 The international workshop "Mongolian Buddhism in Practice at Eötvös Loránd University (ELTE), Budapest, Hungary. at
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 滝澤克彦
2. 発表標題 宗教の越境における民族的文脈 「モンゴル」をめぐるポリティクスと共同性
3. 学会等名 日中社会学会第29回大会学会企画シンポジウム「現代中国をめぐる越境的社会圏の輻輳 資本・労働・環境・市民社会・宗教・民族」
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Takashi Matsukawa
2. 発表標題 . "A brief introduction to the volumes of the Mongolian Kanjur and Tanjur preserved in Japanese collections" The Buddha's Words:
3. 学会等名 International Conference on the Study of the Mongolian Kanjur, Ulaanbaatar, Mongolia.
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Ippei Shimamura
2. 発表標題 What's Behind A Pandemic of Shamans?: The overturning of social relationships and the diverging of morality in contemporary Mongolian shamanism
3. 学会等名 The 11th International Congress of Mongolists ( IAMS) ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ippei Shimamura
2. 発表標題 The Dependent Resistance on/against the Mining Development: A Case Study on Shamanic Activities around a copper-gold mining site in Mongolia
3. 学会等名 International Symposium “Environment of Northeast Asia: Cultural Perception and Policy Engagement (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 趙芙蓉
2. 発表標題 Trans-border Master-Disciple Network of Shamans: A Case Study of the Revitalization of Shamanism in Eastern Mongolia, China
3. 学会等名 The 11th International Congress of Mongolists (IAMS) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 趙芙蓉
2. 発表標題 “Trans-border Master-Disciple Network of Shamans:A Case Study of the Revitalization of Shamanism in Eastern Mongolia, China.”
3. 学会等名 East Asian Anthropologist Association Meeting Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jiro Tanase
2. 発表標題 Labrang Monastery and its Lamas
3. 学会等名 International workshop Between Secularity and Religion: Shamanic and Buddhist Practices in Mongolia; Past and Present (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Cho Fuyo
2. 発表標題 A comparative study of the healing rituals of Khorchin shamans and Barga shamans in the eastern part of Inner Mongolia
3. 学会等名 International workshop Between Secularity and Religion: Shamanic and Buddhist Practices in Mongolia; Past and Present (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 S. Yanjinsuren (ヤンジンスレン)
2. 発表標題 現代モンゴルにおける仏教の状況・宗教観・形態
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ミヤグマルサンボー
2. 発表標題 社会主義時代のモンゴル仏教：研究と成果
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 「モンゴル仏教の誕生? 現代モンゴルにおけるチベット仏教とモンゴル・ナショナリズムの相克と協働」
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝澤克彦
2. 発表標題 「アジア・リンポチェのグローバルな活動と世界のモンゴル人社会」
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 「アムド地方における地域的仏教圏と民間の信仰実践の動態：モンゴル系学僧の言説に着目して」
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松川節・チョナン・ハンチェン・ゲゲーン
2. 発表標題 “ ” (チョナン派とチョナン・ハンチェン・ゲゲーン)
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 . ビャンバラグチャー
2. 発表標題 社会主義の『仏画』あるいはプロパガンダ・ポスターの伝統
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名	アムガラン
2. 発表標題	ガンダンテグチェンリン寺院とハンバ・ノモン・ハーン
3. 学会等名	国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」 International Symposium on Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	島村一平
2. 発表標題	除と憑依と反抗と-モンゴルにおけるシャーマニズムとヒップホップを貫く論理
3. 学会等名	国立民族学博物館 『第306回 研究懇談会』
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	島村一平
2. 発表標題	韻の憑依性：モンゴルのシャーマニズムとヒップホップを架橋する技法
3. 学会等名	内蒙古大学法学院講演(招待講演)(国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	島村一平
2. 発表標題	特別展『邂逅する写真たち - モンゴルの100年前と今』を語る
3. 学会等名	文化財写真技術研究会(招待講演)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名 Yusuke Bessho
2. 発表標題 The Cultural Importance of the Suffocation Method of Slaughtering in Tibet, with a Focus on Regional Variations in Technique Associated with Neighboring Ethnic Groups
3. 学会等名 The 16th Seminar of the International Association for Tibetan Studies at Charles University in Prague (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 櫻井 義秀 (編著)、滝澤克彦ほか9名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 350
3. 書名 アジアの公共宗教	

1. 著者名 星泉・海老原志穂・ナムタルジャ・別所裕介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 448
3. 書名 チベット牧畜文化辞典	

1. 著者名 島村一平	4. 発行年 2017年
2. 出版社 サンライズ出版	5. 総ページ数 308
3. 書名 大学生が見た素顔のモンゴル	

1. 著者名 Ippei Shimamura	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Admon	5. 総ページ数 478
3. 書名 Boogiin Khaldvar-Mongolyn Buriadyn Boo Morgol ba Ugsaajilt	

1. 著者名 島村一平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 440
3. 書名 ヒップホップ・モンゴリアー韻がつむぐ人類学	

1. 著者名 島村一平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 400
3. 書名 憑依と抵抗 現代モンゴルにおける宗教とナショナリズム	

1. 著者名 島村一平編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 199
3. 書名 邂逅する写真たち モンゴルの100年前と今 日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展 [図録]	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留 島村一平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 世界哲学史 別巻	

1. 著者名 Timothy May, Michael Hope, Ippei Shimamura	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 1068
3. 書名 The Mongol World	

1. 著者名 G. Myagmarsambuu	4. 発行年 2022年
2. 出版社 The Institute of History and Ethnology, Mongolian Academy of Sciences	5. 総ページ数 314
3. 書名 Bugd Nairamdakh Mongol Ard Uls: Sotsialism ba Buddhism (1944-1992)	

1. 著者名 池田巧・岩尾一史・別所裕介 ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 チベットの歴史と社会 上	

1. 著者名 山中 弘 編 別所裕介ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 384
3. 書名 現代宗教とスピリチュアル・マーケット	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>季刊民族学164号 特集 モンゴル仏教と化身ラマ  <a href="https://www.senri-f.or.jp/category/journal/">https://www.senri-f.or.jp/category/journal/</a>          化身ラマを人類学する！ 季刊民族学・シノドス共同運航便 島村一平 / 文化人類学  <a href="https://synodos.jp/international/21503">https://synodos.jp/international/21503</a>          【季刊民族学・シノドス共同運航便】化身ラマたちの故郷を訪ねて 島村一平 / 文化人類学  <a href="https://synodos.jp/international/21645">https://synodos.jp/international/21645</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	別所 裕介 (Yusuke Bessho) (40585650)	駒澤大学・総合教育研究部・准教授  (32617)	
研究分担者	趙 芙蓉 (Fuyo Cho) (40761242)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・外来研究員  (64401)	
研究分担者	松川 節 (Takashi Matsukawa) (60321064)	大谷大学・社会学部・教授  (34301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	滝澤 克彦 (Katsuhiko Takizawa) (80516691)	長崎大学・多文化社会学部・教授  (17301)	
研究分担者	小長谷 有紀 (Yuki Konagaya) (30188750)	国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授  (64401)	
研究分担者	棚瀬 慈郎 (Jiro Tanase) (10222118)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授  (24201)	学科長業務が多忙となったため。
研究分担者	堀田 あゆみ (Ayumi Hotta) (10725170)	国立民族学博物館・研究戦略センター・外来研究員  (64401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 日本モンゴル学会秋季大会特別セッション「現代モンゴルにおける仏教実践の諸相」	開催年 2017年～2018年
国際研究集会 International workshop “Between Secularity and Religion: Shamanic and Buddhist Practices in Mongolia ;Past and Present ”	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 科研A「モンゴル仏教のグローバル実践に関する学際的・国際的地域研究」 国際シンポジウム「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会	開催年 null年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
モンゴル	モンゴル国立大学	モンゴル科学アカデミー歴史学研究所	モンゴル科学アカデミー言語文学研究所
スイス	ベルン大学		

共同研究相手国	相手方研究機関			
ハンガリー	エトヴェシュ・ローランド大学	ハンガリー科学アカデミー民族学研究所		
ロシア	モスクワ大学アジア・アフリカ研究所			
インド	チベット研究中央大学			
アメリカ	ペンシルヴァニア大学東アジア言語文明学科	ド・サール大学		
中国	社会科学院世界宗教研究所			